



『未来の自分に向けて』

愛媛県松山市

浮穴剣優部

中学3年生

森 希 敏

剣道という存在に出会ってから6年、僕は人生の見方がとても変わりました。剣道を通して技術面や精神面、礼儀作法などの人間形成において、たくさんのことを学びました。

技術面では日々の鍛錬を怠ることなく、前にある試合に一つでも多く勝つことを目標としています。その目標を達成するために、毎日素振りと走り込みをしています。どちらも持久力を身に付けるために行っています。しかし、すぐに試合に勝てたわけではありませんでした。なぜ勝てないのか考えていると、道場の先生が

「おまえは心が弱い。」

とおっしゃっていました。そこで僕は素振りや走り込み、それらに加えて精神統一をすることにしました。正座をして、姿勢正しく目を閉じて黙想をし、心をもたぬことに、無心になることです。その場の雰囲気を感じながら、空気と自分を一体させることで集中力を高められるのです。これらをしばらく続けると、少しずつですが試合に勝つことができ、賞をとることもできるようになりました。その時、今まで一生懸命練習してきた良かったと思い、とてもうれしかったです。僕が剣道が続ける理由の一つとして、剣道の練習の成果が試合に表れ、勝つことができることがあります。それが楽しいから剣道が続けているのです。

剣の道を歩む剣士として礼儀を重んじることは大切だと思います。道場の先生は礼儀に関してとても厳しくおっしゃいます。自分の靴やトイレのスリッパは、そろえて置く。あいさつは相手に伝わるぐらいの大きな声で誰にでもする。そのほかにも多くのことを教えていただきました。トイレのスリッパが綺麗にそろえてあると気分がいいし、元通りもどした方がいいなとも思い、自分もそろえるようになりました。また、試合の日に他の道場の先生にあいさつをすると、笑顔であいさつを返してくれます。心がスッキリして、緊張せずに試合に挑めることができました。

今までの剣道の練習で飛躍的に変化したのが一つあります。それはチームメイトとの信頼関係です。剣道の団体戦では5人の気持ちが一つになることで試合に勝てると思います。みんなにとって当たり前のことが、僕にとってはチームワークを高める方法だと思います。それは、練習に全員が揃うことです。つらい時も、夏の暑い日も、冬の寒い日も、苦しい試練の壁を乗り越え、みんなでいい汗をかくことで、みんなで達成感を味わうことができます。このことから、僕は剣道が続けていく上で、人間として大きく成長していけると思いました。今後も剣道を続け、よりよい人間を創っていきたいです。

僕の将来の夢は教師になることです。今は文武両道を掲げる高校に進学するために、勉強に励んでいます。僕はその高校で勉強も剣道も両立して頑張ることで、人としても成長するだけでなく、夢への第一歩になると思います。

そして、社会に出たら剣道で学んだことを生かし、みんなに認められる人間になって、剣道を世に広めたいと思います。今まで剣道が続けられたのは、両親の支えと道場の先生のおかげです。僕は感謝の気持ちを忘れず、これからも剣道の稽古と勉強との両立に励みたいです。



『私が剣道をやって身に付いたこと』

東京都板橋区

東京練武會

中学2年生

別 府 優 香

私が剣道をやりに始めて身に付いたことは、『礼儀』です。

剣道には、『礼に始まり礼で終わる』という言葉があります。そして、礼儀の中には、剣道と日常で使う言葉があります。それは、『挨拶』です。

剣道で、先生や先輩だけでなく、友達や後輩、友達のお母さん方などに挨拶する事によって、たくさんのコミュニケーションがとれるという事を学びました。また、剣道だけではなくそれは、どこでも同じだと思いました。

前の私は、朝起きてあまり「おはよう」と言わなかったり、出掛ける時に「行ってきます」と言わなかったりしていました。剣道をやりに始めた私は、前と比べて、きちんと挨拶する様になりました。近所の人にもきちんと挨拶をする様に心がけています。剣道でも、日常でも挨拶はすごく大切なことなんだと感じました。

あと、私が剣道をやって身に付いたのは、『黙想』です。

私が剣道を始めようと思っていた時、私の弟に「見学においでよ」と言われて、見学に行ったのが初めてでした。

最初に準備運動をし、次に整列をして着座をし、黙想をするという順番でした。もちろん剣道を始め体験する私は、何も分からないまま、見よう見まねでやりました。黙想がかかった時、隣の人を見てみると、目をつぶっていたので、私は何も考えずマネをし、目をつぶりました。剣道をやりに始めてからも、黙想がかかると「真剣に目をつぶればいいのか？」と思い目をつぶっているだけでした。私は今思うと、とても恥ずかしいです。私は、何ヶ月も何も考えず、目をつぶっていましたが、つい最近先生に言われ、やっと黙想の意味が分かりました。私は先生に「黙想は、ただ目をつぶってればいいんじゃないんだよ。黙想っていうのは、今日、自分が稽古をして注意された事、誉められた事を思い出して、次の稽古では注意されないように、こういう事に気を付けようとか、あの人みたいにこうやれば苦手な所も克服できるかも、などを思い出して自分の頭で整理をして、まとめる時間が黙想なんだよ。」

と、言われてから私は「黙想にはそんなに深い意味があったんだ。」

という事が分かり、今は黙想を掛けられたらきちんと、今日注意された事などを整理してまとめています。

『礼儀』の中に含まれる「挨拶」、「おはようございます」、「こんばんは」など、日常で頻繁に使っている様々な言葉をあらためて、とても大切な人だと思いました。

また、『黙想』は、日常ではあまり使いませんが、剣道ではとても大切なことだと思います。

私が剣道をやって身に付いた挨拶や黙想をこれからも守っていき、剣道も一生懸命頑張って強くなっていこうと思います。



『本当の恩返しとは』

愛知県岡崎市

東レ居敬堂

中学2年生

古川 黎

僕が剣道を始めて7年になりました。今まで多くの人と出会い、多くの人に助けられ、多くの人に教えられてきました。僕がお世話になった人は、先生方や先輩方、後輩、両親、兄弟、そして友達です。その全員から、必ず何か教えを受け学べた事に、とても感謝しています。でも最近、感謝するだけでいいのだろうか、と思うようになりました。受けた恩は返す「恩返し」をしたいと考えました。では、どのような恩返しをすればいいのだろうか。考えてみると、とても難しく思えました。特に先生方に対しては、いろんなことを与えてもらっばかりで返せるものがなかなか思い当たりませんでした。

この夏、甲子園で行われた全国高校野球選手権大会で、試合に勝利した高校の選手が、「これで監督やコーチの先生方に恩返しができました。」と言っているのを耳にしました。強くなるために、指導して下さった先生方です。たしかにいい結果を出す事ができれば、とても喜んでいただけます。

昨年、僕も大会に出場して3位になったことがありました。先生も非常に喜んでくださいました。僕はその時、今まで熱心に指導をしてくださった先生に、その恩返しができたと思い、とても嬉しくなりました。しかしその後しばらくして、僕の頭の中で1つの疑問が浮かび上がってきました。試合に勝つことで恩を返せるなら、試合に勝てない人はどうするのだろうか。試合で負けてしまう人はどうするのだろうか。そういう人達が沢山いると思います。では、そのような人達は、監督やコーチ、先生方に恩返しをすることができないのでしょうか。その時、同じ大会に出ていた友達の顔が頭にうかびました。目標にとどかずに負けてしまったその友達は、とてもくやしそうな顔をしていました。その友達も、先生への感謝の気持ちは僕と同じはずなのに…。

答えの出ないまま夏になりました。僕の中学の部活の先輩方は、最後の大会に向けて一生懸命に稽古しておられました。自宅でも自主練習を重ねられ、最後はチームワークのとれた素晴らしい試合をされました。その時顧問の先生は、本当に嬉しそうに、「みんな中学から剣道を始めて、よくここまで助け合いながらがんばってきたな。今まで本当にありがとう。」と言われました。決して強くはありませんでしたが、先輩方がのんびりは僕にも伝わってきました。そしてその気持ちは先生にも伝わって、喜んでくれたのです。僕はその時少し分かったような気がしました。道場の先生も、剣道の技だけでなく、将来に向かってどのような心がけがよいか、常に教えてくださっています。

恩返しとは、僕に何を望んでおられるかを考え、それに答えられるように努力しつづけること。しかし、まだそれは通過点にすぎません。「本当の」恩返しとは、一生懸命に物事にはげみ、将来立派な人間になることではないでしょうか。

剣道を始めてから今までに、多くのことを学んできました。様々なことに本気で考えて、進んで実行すること。約束や義務を必ず果たせるように努力すること。心を養い、人格を高めること。人の役に立って世の中に貢献すること。感謝の気持ちを忘れないこと。このようなことができる人間になって、初めて本当の恩返しができるのだと思います。

今の僕を見直してみると、まだまだだと思います。剣道を始めたのは7年前でも、本当に学び始め

たのは最近かもしれません。これからもいろんな失敗を繰り返すと思います。でも、その中からも何かを得る姿勢を忘れないでいたいと思います。そして、生涯を通じて立派な人間になり、お世話になった人に、本当の意味での恩返しができるように、日々努力しつづけていきたいと思います。



『もう一度剣道がしたい』

兵庫県揖保郡

新宮剣志館

中学2年生

山 本

碧

「お前は帰れ。もう来んでええ。皆にやる気のなさが移る」と先生の怒声が道場に響き渡った。私は、暑くて苦しくだらだらと気のない稽古をしており先生に何度も注意された。だけど素直になれず反抗的な態度をとっていた。先生の声にドキッと足が止まった。「あーとうとうやってしまった」ついに先生の雷が落ちたのである。それは7月の終わりのことだった。今迄も同じ様な事を繰り返しては、許してもらっていたので甘えがあったのだろう。でも今回はいつもと違うと直感したがもう遅かった。家に帰ると父と母の顔つきが異様だった「もう剣道出来んでもえんか。剣道して良かった事はなかったんか。よう考えてみー。辞めるんやったら家に入れん」と父は私を外に放り出した。その日から私は近くに住む祖母の家で暮らした。「このまま剣道に行かんでええんかなあ」と思ったけど真剣に考えようとはしなかった。好きかどうかも分からなくなっていた。でも日が経つにつれ剣道をしない事が不安になってきた。小学1年の頃から剣道を始め、最初は楽しく喜んで稽古に出かけた。高学年になるにつれ、厳しく怒られる日々が続く嫌になり始めた。中学生になっても、その気持ちは大きく膨らみ疲れるとだらだらし、すぐにふてくされた。注意される事はいつも決まっていた「声を出せ。気を抜くな。一で振れ」やる気さえあれば誰でも出来る事ばかりだ。やる気のない私にどんな言葉も届かなかった。いや聞き入れ様としていなかった。「そんなに嫌なら辞めればええやん。やる気にもないのにどうして続けてるん。私はどうしたらええんやろう」と自問自答した。何度も自分に問いかけるが答えが見つからない。時間だけが過ぎ半月が経った。夜になるとなぜか仲間の事が気になり、じっとしてられず自然と竹刀を握っていた。その時ふっと「先生を信じて頑張らなあかん。碧は先生の優しさが分からんのや。俺も今になって気付いたけど」と言ってくれた兄の言葉を思い出した。兄は、私以上に怒られていたが素直に聞き取り組んで、一つ一つの段階をやり遂げ昇っている。そんな兄の言葉は重く私の心を動かした。先生は私の為に注意してくれているのに怒ってばかりと思っていた。先生の優しさや一生懸命さが分からず楽ばかりしていた。今私のしなければならない事は弱い気持ちから逃げる自分に負けたらあかんと言う事だ。もう一度剣道をやり直したいと思うまでに、1ヵ月もの時間を費やした。先生に許してもらえようお願いしたけど「もう遅い。知らん」と冷たかった。それでも許してもらえろ迄毎日お願いしようと自転車で片道45分かけ先生の家に通った。反省文も毎日書いた。「反省文を、書いて終りじゃないぞ。それは、お前が行動で示すことだ」と言われた。1週間が過ぎた頃「家に来て碧のやる気や反省は皆に伝わらん。道場に来て座ってろ。2、3週間様子を見る」と先生に道場に入ることを許してもらい正座し見取り稽古が出来る様になった。先生は常々「道場の子供達は皆家族と一緒にだ。だからほめる事もするし、怒りもする。剣道を通して学んだ事を家庭

生活、学校生活、社会生活に応用して頑張っで欲しい。志を立てたら最後迄貫き通す心を持ち立派な人になって欲しい。自分が選んだ剣道。死に物狂いで頑張るからこそ周りの人は認めて支えてくれる。その努力こそが自分の糧になるんだ」と言われていた事を思い出した。2週間が過ぎた頃仲間とお母さん達が「碧を許してやって下さい先生お願いします」と何回も頼んでくれた。私は嬉しくて涙がとまらなかった「碧、仲間や親達に感謝しろよ」と先生は言われた。常に感謝を忘れず謙虚な心で努力する事を心に誓った。先生のあつい気持ちに答えられるようもう一度剣道を頑張りたい。



『天知る 地知る 我知る』

北海道千歳市

千歳明德館

中学1年生

大 薄 寛 奈

長かった6年間の小学校生活を終えて、いよいよ始まった中学校生活。

少年団とは違って、基本から、応用を、中心に稽古する部活では、練習内容も練習時間も厳しくなりました。勉強も難しくなり、厳しい練習を休みたいと弱い気持ちになることもあります。

こんな私を支えてくれる言葉があります。

「天知る、地知る、我知る」

この言葉は、小学生のころ基本を重視する少年団の先生が、稽古の合間に話して下さった言葉です。

それは、各種大会において、団体戦で自分のポジションの役割を果たせず、チームのみんなにたくさんの迷惑をかけた時期のことです。最低でも勝たなくてはならないところで引き分け、引き分けてこなければならぬところで負け、試合を行うたび役割を果たすことが出来ずにいた私は、悔しくて悔しくて落ち込み、涙がこぼれるばかりでした。

「天知る、地知る、我知る」

この言葉は先生が小学校5年生の時に亡くなったお父さんから教わった言葉だそうです。悪いこと、良いことをする時も天の神様、地の神様、そしてそれをする自分が一番知っているという意味の言葉だそうです。剣道においては「影の努力は、天の神様、地の神様、そして自分が一番知っている」ということに、私はおきかえてみることにしました。

私は今までのことを振り返りました。本当に私はチームのために精一杯の努力をしてきたのだろうか？

これからは天と地の神様と自分に恥じることのない努力をして行こう。

私はこの時、決断したこの言葉を胸に毎日の稽古に望みました。毎日早起きをして素振りやランニングをし、自分の為に納得するまで努力しました。

すぐに成果は出ませんでした、少しずつ少しずつ、貢献できるようになりました。どんなに強い相手とあたって、その相手とどんなにレベルの差があっても、あんなにがんばったんだ。天の神様、地の神様が見ていてくれる。そう思って戦っていると惑うことなく自分の力を発揮することができました。

日々の稽古、休みたくなることもありますが、自分の気持ちが弱くなった時にこの言葉を思い出し、

自分に問いかけがんばっています。

そして数々の練成会や大会でよい成績を残せるようになってきました。

中学生の試合はたったの3分間。その3分間のためにどれだけの汗と時間を費やしているのか、そういう疑問を持っていましたが、結果がでた時は、うれしくてこの3分間のために費やしてきた時間は、決して無駄ではなかったと素直に思えるようになりました。

私は、大人になっても剣道を続けたいと思っています。そのためには、しっかりと基本を身につけなければなりません。

家は土台がしっかりしていないと地震や台風などにより、壊れてしまいます。

私は、剣道も同じだと思っています。

「天知る、地知る、我知る」この言葉を胸に、目標に向かって勉強、剣道と、悔いのない中学校生活を送りたいと思います。



『父の剣道にあこがれて』

宮城県伊具郡

臥牛館道場

中学2年生

山 本 な か

臥牛館道場に入門して、はや4年になります。勉強のこと、友達のこと、部活や将来のことなど、色々と迷い、悩みながらも、父と一緒に道場に通っています。

父は、40歳の時に、臥牛館道場で剣道を始めたそうです。それ以来6年間、どんなに忙しくても、週3回の稽古は休むことはありません。父は、小さな町の開業医で、どんなに朝早くとも患者さんの身になって診察し、困っている患者さんがいると往診もしているので、町の方々からも感謝されています。

私も、父のような医師になりたいという、あこがれの気持ちから、ある時、どうしたら私の夢でもある「医師」になれるのか、父に尋ねてみました。すると、それは「一生懸命勉強すること、熱心に剣道を続けることだ」と意外な答えが返ってきました。どうして、一生懸命剣道することが、医師になることに繋がるのだろうか、初めは分かりませんでした。

父の稽古に打ち込む姿を見ていると、いつも父は、人よりも早く道場に行き、自ら道場の掃除を率先してやっているのです。そうすることにより、道場に対しての愛着心も湧き、床の状態を知ることにより、怪我を防げることに繋がるのだなあと思いました。父は口数の少ない人ですが、こうしていつも自分の身をもって、私達に教えているのです。

臥牛館道場の館長先生は、「残心」という言葉を常に使います。「残心」とは、文字通り、心を残すということです。剣道では一本打ち込んだ後に、油断なく、しっかり身構え、気構えをすることだと教えてくれます。

しかし、この「残心」は剣道だけにとどまりません。例えば、日常生活で、トイレから出る時、スリッパを次の人のために揃えるという、思いやりの心も「残心」なのです。

父はよく私に「家の玄関を出てから、家に帰り玄関に入るまでが、一つの稽古である」と言います。

剣道は、稽古をして、試合に出ることを繰り返すだけではありません。普段の生活の中で、既に稽古は始まっているのです。

ある時、私が、試合の日の朝に起きられなかった時、父から「人間は疲れている時、お腹がすいている時、そして、眠い時に、本当の自分が現れるのだ」とも言っていました。ふと普段の自分を振り返ってみたとき、日常生活での「残心」の足りなさ、基本的なことすら出来ていない自分の弱さに気づかされ、剣道の稽古を通して、自分を鍛えることが改めて必要だと思いました。今は、自分のためにも意識しつつ稽古に励んでいます。

私の医師になるという夢は、とても困難な道です。ただ知識が豊富であるだけではなく、巖も砕くような強い志がなければ、到達することはできません。知識は、一生懸命勉強することで手に入れることはできます。では「強い志」はどうすれば手に入れることが出来るのでしょうか。その答が父の言う「熱心に剣道を続けること」なのだと思います。

臥牛館道場では「三つの誓い」があります。

一、剣道を通して立派な人間になります。

一、剣道を通して強い身体と心を磨きます。

一、剣道を通して友達をつくり協力しあいます。

この「三つの誓い」を守り、熱心に剣道に励むことで、身体と心は鍛えられ、生涯を通して続けることにより、数多くの経験と人間関係が生まれ、立派な人間に成長できるのだと理解しています。これからも、今まで学んできた剣の道を信じ、努力を重ね、未来へと突き進んでいきたいと思っています。

努力すれば、正しい願いは、必ず叶えられることを信じて・・・



『心身を鍛えて』

佐賀県西松浦郡

西有田中学校

中学1年生

西 山 ひかり

剣道部に入部する以前の私は、剣道とはくさくてきついだけのスポーツだと、思っていました。また、先生はこわそうで、練習もきつそうだとばかり思っていました。しかし、実際は全く違いました。剣道に対して、よいイメージがないという先入観だけで、判断していたのです。

私が剣道を始めたのは、何となくという感じで特にきっかけはありませんでした。私の姉が剣道をしていて、家にたくさんのメダルがあり、私もそれをとってみたいと思いましたが、まだその時は剣道に先入観があり、とまどいもありました。中学生になって始めはしたものの、初めてで全くと言っていいほどわかりませんでした。これで、みんなについていけるのか、あきらめようかと、自問することもありました。でも、そんな程度でやめてしまうほど、私の心は弱くないはずだと思い、続けました。

面をつけられるようになってから、本格的な練習ができ、錬成会にも参加するようになりました。もちろん、試合もありますので、出場させてもらいました。ところが、当たり前のことですが、新人がベテランにかなうはずもなく、負けてしまいました。負けると分かっているのに、私の負けず嫌いと

という性格が顔に出てしまいます。負けるたびに何度も、泣いていました。しかし、いつまでもめめそ泣くわけにもいきません。この悔しさを忘れずに、たくさん練習をして、心身共に強くなろうと思いました。練習を積み重ねることで、注意されつつも一つ一つの動作が以前より上手くなりました。

初の公式試合では、個人戦で一勝することができました。とても嬉しくてなりませんでした。初めて勝てた喜びは、何にもたとえようがありませんでした。

最近はずいぶん、試合に出ても勝てません。私が試合で負けてしまうのは、初心者だからということ他に、もう一つ大きな問題があるからです。それは、自分から攻撃しないことです。相手が打ってくるのと同時にうつか、逃げるかしてしまいます。しかし、いつまでもそれでは進歩がないので、相手が動く前に攻撃できるように、日々の練習から意識してみようと思います。そして、初心者だから負けるのは当たり前と思わず、初心者なのにすごいと言われるようになりたいと思います。

剣道を始めて5ヵ月、私は様々なことを学んでいます。その一つは、心身共に鍛え、強い精神力をもつことです。強い精神力を身につけて強くなり、今までのようにめめそしたり弱気になったりしなくなりました。次に、だれに対しても礼儀正しくすることも学んでいます。今でもまだまだ足りない点がありますが、少しずつ身についてきました。そして、礼儀作法とは、本当に大切だということが改めて分かりました。

最初は何となく始めた剣道でしたが、得るものはたくさんあります。その収穫を普段の生活に、十分に生かしていきたいと思っています。たくさん練習して、技をみがき、上手になりたいと思います。そして、両親や監督など普段お世話になっている方々に、感謝の心を忘れないようにします。練習や経験を積み重ね、いつか姉や兄のような剣士になりたいと思っています。



『剣道で叶える夢』

山口県防府市
大歳剣友会
中学2年生

長 峯 ほのか

「何？すっすごい!!早い、強い、相手の竹刀の動きが見えない。緊張で身体が思うように動かない。」
こんな剣道生まれて初めてでした。

昨年の夏、島根県で行われた全国中学校剣道選手権大会に出場した、私の体験談です。この全中までの道のりは、苦しくて、辛くて長い道りでした。

私は、勉強はもちろん、小学校の時から習っている剣道も続け、文武両道を目標に中学校に進学しました。

中学校では、小学生とは違い、自分で考え行動できる事、積極性や自主性が重視され、いつでも受け身だった私は、学校生活で、勉強も剣道も一日一日がやっという日々が続いていました。

そんなある日、自分が考え、思いもしない事が起こったのです。私が人をいじめているのです。私は、自分の耳を疑いました。身に覚えもなく、先生や友達との面談。そんな事が、次々とおこり、自分の考えや行動、言動に自信が持てなくなりました。何のために学校に行くのだろう？何のために剣道をするのだろう？今まで何をしてきたのだろう。と悩む日々が続きました。でも、そんな私

の心とうらはらに剣道部では、市予選会、県大会と試合は行われていったのです。こんな気持ちでは勝つことはできず、先生からは「自分勝手な行動だから勝てない!!」と言われ、泣いた事を思い出します。今思うと先生は、今こそみんなのために剣道をするんだ!!と言いたかったのだと思います。私はそんな事等考える余裕もなく、自分の事ばかり。自分の疑惑は晴れたものの、心の中は、ずっと曇り続きでした。

そんな中、県で一校しか出場できない全中への出場切符を手に入れたのでした。夢にまで見たあの太舞台に立てるのです。すごい!!と思いました。

しかし、夢はすぐに打ち砕かれたのです。私達は、優勝したけれど、誰にも負けない位の努力をしたのか?稽古はしたのか?礼儀は身につけているのか?と、またまた疑問があふれて来たのでした。そして、今の自分は全中に行く資格があるのか?答えは出ないまま日々は過ぎていきます。自分の中にあせりがつり、そのあせりを消すために夢中で勉強したのです。落ちつかなかったから…逃げていたのかもしれませんが。まっすぐに剣道と向き合う事ができなくなってしまいました。

そんな時、久しぶりに道場の稽古に行きました。いつも使う面タオルそこに書かれていた言葉は?「不動心」これだ!!どんな時も自分を見失わない心。私が悩んでいたのはこれだ!!周りに流されず自分で選んだこの道を進もう。私は私、人は人。そして先生が言っていた一人はみんなのためにみんなは一人のために…。

次の日から、自分との戦いが始まったのです。日常生活では人がいやがる事を進んです。稽古では一本でも一秒でも長くできるように。少しの移動時間では、勉強したり、一日一日を大切にすごす様に心がけました。

迎えた全国大会。忘れられない一日。山口県の代表。みんなの思いや願いを背負っての大会出場です。試合で戦った選手。稽古を共にした仲間、友人。今まで指導して下さった先生方。そして何より、見守ってくれた家族。自分に関わるすべての方々に感謝をして、開始線へ立つ。積極性、自主性、協調性、ねばり強さ、忍耐力、全てを手に入れたものだけが優勝という栄光を手に入れる事ができる。

この全国大会に出場して、私にとって素晴らしい宝ものを手に入れました。剣道ができる事、剣道を続けてこれたから、夢や目標が叶えられたと思います。

これからも、苦しい事がたくさんあると思いますが、自分と向き合い振り返り、自分らしく、全力で夢に向かって努力します。



『僕は剣道を辞めない』

神奈川県南足柄市

南足柄剣友会

中学2年生

石 黒 遼太郎

僕は6歳の頃、剣道を始めました。そして今は南足柄剣友会で号令を掛け、団体戦では大将として出場しています。最初は大將の重圧に耐えられなくなり、逃げ出したいと思った時もありました。しかし、今では毎週水曜日と土曜日の夜、弟と一緒に剣友会の稽古に行くことは自分達の生活習慣になっています。

小学6年生の時、中学生になったら部活動でも剣道ができると期待していました。しかし、僕らの通う中学校の剣道部は廃部寸前でした。僕達と入れ違いに卒業された剣友会の先輩方は、週3回だけという制約付きながらも剣道部として活動し、県大会にも出場していました。しかし先輩方の卒業後、剣道部は廃部と決まっていた。僕たちは剣道部に入部したい、剣道部で活動を続けたいと頼みました。剣友会の先生方や保護者の学校への働きかけで、何とか中学校体育連盟主催の公式戦には出場出来る事になりました。しかし、普段の部活動は認めてもらえませんでした。一緒に剣道をやってきた仲間達は、中学校の説明を聞いて他の部活を選んでいきました。僕も普段は陸上部員として走る練習をする事になり、長距離のチームで毎日何キロも走っています。

雨の日の校舎内練習の時、卓球部の練習場となり、床が傷だらけになってしまった剣道場の前を走るのはとても悔しい。朝や放課後の練習で走りながらも、剣道場で稽古がしたかったと思ってしまいます。陸上部の練習後、帰宅すると着替える時間も無いままに剣友会の稽古場へと急ぎます。夜6時から3時間の剣友会の稽古はキツイです。血尿が出た事も有ります。土曜・日曜日などに剣道と陸上の大会が続き、休めない週も有ります。楽しみにしていた中学校の生活がこんなに辛く大変だとは想像もしていませんでした。「どうして俺だけがこんなにキツイ思いをしなければならないんだ」と、怒りが込み上げてきます。

しかし、不思議と剣道を辞めたいと思った事は一度もありません。剣道をするために陸上部でも頑張っているんだと、自分に言い聞かせています。夜の剣友会の稽古に行く事が一番の楽しみなのです。しかし剣友会の稽古は辛く厳しいときもあり、ときには稽古に行きたくないと思う日もあります。それでも、剣道は多くの事を僕に与えてくれます。稽古の後、道場で黙想している時の清々しさ、心を無にした静かな時間の中の満足感、稽古をやり遂げたという達成感。これらは剣道以外の事では得られないと思います。

僕の中で剣道が占めている割合はとても大きい。時間から言えば、週に水曜日と土曜日の夜3時間ずつの計6時間に過ぎません。陸上部や学校での学習時間の方がはるかに多いです。しかし、時間の問題では無いのです。剣道が僕の生き甲斐であり、僕の心を支えてくれます。僕は剣道を通して多くの事を感じ、学び、そして成長してきました。

剣道は厳しい稽古や礼節を通して自分という人間を形成していく武道です。一つ一つの所作や打突にも意味があります。相手と全身全霊で向きあう誤魔化しのきかない真剣な勝負があります。礼節と共に相手を尊重し、思いやる気持ちも身に付けることができます。自分で学び、相手からも学ぶことができ、共に成長していくことができます。

僕はこれからも剣道を続けていきたい。そして剣道を通して学んだ多くの事を活かしていきたい。僕は、剣道を辞めない。